

第 1 学年生活科学学習指導案

1 年 1 組 指導者 志賀直美

単 元 だいすきだよ！〇〇くん

1 本単元で子どもが創出と受容、転移を行う各教科等の本質（見方・考え方）

生き物への愛着

2 本単元について

本学級の子どもたちは、学校生活で様々な生き物と出会い、捕まえたりケースに入れて観察したりしてきた。時には、死んでしまうことを体験することで、早めに逃がしたり、休日に家へ持ち帰ったりする姿もある。このような子どもたちが、地域に生息する生き物を育てる学習に取り組む。このことは、命あるものを大切にしようとする態度を育むとともに、身近な生き物や地域に親しみをもって関わり、日々の生活を豊かにすることにもつながるであろう。

本単元は、地域に出かけて生き物を捕まえ、育てたい生き物を決めて育てていく学習である。子どもたちは、捕まえ決めていく中で愛着をもちはじめ、餌やりや遊び場づくりなど思い思いに世話をしていくであろう。その過程では、継続的な関わりと、生き物に対する気付きと、愛着は相互に作用し合っていると考える。その中でも特に、命ある生き物との関わりにおいて土台となる愛着を深めていくことを大切にしたい。そうすることで、生き物の立場に立った関わりに気付き、命あるものを大切にしようとする態度を育むことにつながるからである。

そこで、以下のような支援を具体化し、本単元でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 毎朝生き物と関わる時間を設定し、世話をしたの気付きを「〇〇くんにつき」に記録するよう促す。そうすることで、生き物の変化や成長に気付くことができるようにする。【創】
- 世話の仕方を変えた発言が出た際、変えた理由を想像するよう全体に問う。そうすることで、生き物の立場に立った関わりに気付くことができるようにする。【受】
- 単元の終末に、生き物からの手紙を書く時間を設ける。そうすることで、生き物への関わりや自分の気持ちの変容に気付き、喜びや自信をもとに、どの生き物も大切にしようとすることができるようにする。【転】

3 本単元の目標（動植物の飼育・栽培、生活や出来事の伝え合い、自分の成長）

- 地域に生息する生き物を毎日自分で世話をし、気付きを交流することをおして、生き物の立場に立った関わりに気付き、生き物を大切にしようとするができるようにする。
- 学習をおして得られた喜びや自信をもとに、身近な生き物や地域に親しみをもって関わり、日々の生活を豊かにしていくことができるようにする。

4 本単元における評価規準

知識・技能の基礎（知）	思考・判断・表現の基礎（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
○生き物には命があることや変化し成長していることに気付いている。 ○生き物と自分との関わりや自分の成長に気付いている。	○生き物の育つ場所や変化や成長の様子に関心をもって生き物に働きかけている。 ○観察したことを日記に書いたり、生き物との関わりについて友達に伝えたりしている。	○生き物に愛着をもち、命あるものとして大切に育てようとしている。

5 指導計画（全 17 時間）

第 1 次 地域に出かけ、生き物を捕まえる（8 時間）

第 2 次 自分の育てたい生き物の世話をし育てる（8 時間）【本時 5 / 8】

第 3 次 生き物からの手紙を書き、学習全体を振り返る（1 時間）

第 1 学年 生活科学 学習指導計画

1年1組 指導者 志賀直美

51M (17時間) **が本時**

学習活動	子どもの意識
第1次 地域に出かけ、生き物を捕まえる 24M (8時間)	
学習内容 <ul style="list-style-type: none"> ・生き物を捕まえたり育てたりした経験の伝え合い (思) ・生き物を捕まえたり育てたりしようとする思い (態) ・生き物の飼育方法 (知) 	
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 生き物を捕まえたり、育てたりした経験を伝え合う (3M) <input type="checkbox"/> 育てたい生き物の飼育方法について調べる (3M) <input type="checkbox"/> 世界の森公園に行って生き物を捕まえる (6M) <input type="checkbox"/> 五十鈴川に行って生き物を捕まえる (6M) <input type="checkbox"/> 亀山公園の池に行って生き物を捕まえる (6M) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で捕まえたオタマジャクシがカエルになったよ。幼稚園の時に捕まえたザリガニを育てている人もいるのだね。学校の近くの池で捕まえたのだから。学校の近くの川にカニがいるってお兄ちゃんと言っていたよ。世界の森公園でバッタを捕まえた人もいるのだね。いろいろなところに行って生き物を捕まえたり、育てたりしてみたいな。 ・バッタの餌や住処をどうしたらよいかを本で調べてきた人がいるのだから。前捕まえたオタマジャクシが死んでしまったからそうならないようにするためなのか。ぼくはザリガニについて本で調べてみよう。釣り方や餌、住処が分かったよ。捕まえる前に準備をして行こう。 ・今日は世界の森公園に行くのだね。どんな生き物がいるか楽しみだな。あっ、バッタがいた。自分で捕まえられて嬉しいな。ショウリョウバッタというのだから。トノサマバッタやコオロギを捕まえた人もいるのだね。世界の森公園にはいろいろなバッタがいたよ。次は五十鈴川に行くのだね。どんな生き物がいるのか楽しみだな。 ・川に入る準備をしてきたよ。あれ、何もいないな。カニを捕まえた人がいるのだから。石をひっくり返して見付けたらしいよ。Bさんもカニを捕まえたいのだね。あっ、いた。でもすぐに石の間に入ってしまったよ。一緒に捕まえたならBさんが喜んでくれたよ。五十鈴川にはカニがいるのだね。次はいよいよ亀山公園の池か。楽しみだな。 ・ザリガニを釣る道具をつくらせてきたよ。餌は煮干しだよ。釣れるかドキドキするな。やった、ザリガニが釣れた。棒をゆっくりと上げてみたら、はさみで餌を挟んでいたよ。怖くて持てなかったけれど、友達が持ってくれて助かったよ。怖いけれど自分で釣ったザリガニを飼うことが楽しみだよ。準備しておいたケースにすぐ入れよう。
第2次 自分の育てたい生き物の世話をし育てる 24M (8時間)	
学習内容 <ul style="list-style-type: none"> ・生き物に関心をもって働きかけること (思) ・観察日記を書いたり、生き物のよさを友達に伝えたりすること (思) ・生き物の命や変化・成長への気づき (知) ・生き物の立場に立って、大切に育てようとする態度 (態) 	
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 育てたい生き物を決めて観察する (3M) <input type="checkbox"/> 生き物の観察をする (3M) 	<ul style="list-style-type: none"> ・やっぱりザリガニを育てたいな。どんな世話がよいか。煮干しをやったら食べたよ。嬉しいな。オスかな。メスかな。ひっくり返さないと分からないのか。友達が手伝ってくれてオスだと分かったよ。ザリ君という名前にしよう。タブレットで写真を撮って毎日日記を書くのだから。よし、ザリ君のことをいっぱい日記に書いていこう。 ・ザリ君今日も餌をあげるよ。小さなはさみで口に餌を運ぶ様子がかわいいな。カニを飼っているBさんは、昨日はご飯粒だったのに今日はカニの餌というのをあげているのだね。ご飯粒は水が汚れやすいのだから。そういえばザリ君の水槽が汚れて臭くなってきたよ。水を替えよう。きれいな水になってザリ君も元気になった気がするよ。

□生き物の世話をする (1M)	・ザリ君今日も元気よかった。水が汚れないようにBさんみたいにザリガニの餌というのをあげることにしたよ。食べてくれてよかった。石を置いて遊び場をつくったよ。ザリ君、楽しいでしょ。
□生き物の世話をする (1M)	・ザリ君、餌をあまり食べないし、なんだかいつもと色が違うよ。具合が悪いのかな。餌を食べているか後でもう一度見てみよう。やっぱり餌を食べていないよ。水が汚れないように餌を取り除こう。
□生き物の世話をする (1M)	・あっ、ザリ君が脱皮している。触ったら殻が柔らかくて驚いたな。固くなるのに3、4日かかるって本に書いてあったよ。取れていた足も生えているよ。よかったね、ザリ君。少し大きくなって、誕生日みたいだね。石があると狭かったね。ごめんね、取ってあげよう。
□生き物を自慢するための準備をする (3M)	・「みつけたことじまん」をするのだった。自分だけが知っている自慢をするのだね。日記を読み返すと、いろいろなことを思い出したよ。たくさんあるけれど「初めの頃と違って寄ってくるようになったこと」「餌の食べ方がかわいいこと」「脱皮して足が生えたこと」この3つを伝えよう。準備ができたぞ。どんな自慢がでてくるのかな。
□育てている生き物の自慢をする (3M)	・ザリ君はぼくを見ると寄ってくるよ。毎日ちゃんと餌をあげているからね。小さいはさみで食べるころがかわいいよ。Bさんは麩をあげているのだった。水が汚れて大変だけれどもカニちゃんのことを考えていたのだね。そういえば、ぼくもザリ君が狭そうに見えて、石を取ったことがあったな。もっとザリ君のことを考えて世話をしたいな。
□生き物の世話をする (1M)	・ザリ君、水が汚れるからってザリガニの餌にしていたけれどいろいろな餌を食べた方がよいみたいだよ。だから今日はレタスをあげるね。どう、おいしいかい。食べ残しはすぐに取ってあげるからね。
□生き物の世話をする (1M)	・ザリ君、前みたいにはさみを振り上げて威嚇しなくなったね。触っても大丈夫かな。やったあ、初めて持てたぞ。ぼくのことももっと好きになってくれたのだね。ぼくも好きだよ。
□生き物の世話をする (1M)	・ザリ君、大きくなって狭そうだから、部屋を広くしてあげるね。隠れる所も広くしよう。これで上に上がるための石も置けるね。ザリ君が広がって気持ちよさそうでぼくも嬉しいよ。
□生き物を自慢するための準備をする (3M)	・やったあ、2回目の「みつけたことじまん」だ。今度は「いろいろな餌を食べること」「威嚇しなくなったこと」「部屋を広くして気持ちよさそうなこと」この3つを伝えよう。よし準備ができたぞ。
□育てている生き物の自慢をする (3M)	・ザリ君は、いろいろな餌を食べて元気だよ。特にレタスが好きだよ。前ははさみを振り上げて威嚇していたけれど、今はしなくなって持てるようになったよ。部屋を広くして隠れ家もつくったよ。みんなも生き物のことを考えていろいろなことをしたのだね。自慢を伝えたり聞いたりしていくうちに、ザリ君のことが大好きって思ったよ。

第3次 生き物からの手紙を書き、学習全体を振り返る

3M (1時間)

学習内容 ・生き物への愛着を手紙で表現すること (思) ・生き物と自分との関わりや自分の成長への気付き (知)
・身近な生き物や地域に親しみをもって働きかけようとする思い (態)

□育てている生き物からの手紙を書き、学習全体を振り返る (3M)	・生き物がどんなことを思っているのか手紙を書くのだった。ザリ君からの手紙か。「毎日毎日お世話してくれてありがとう。部屋を広くしたり、好きなレタスをくれたりして嬉しかったよ。脱皮して足が生えたときに喜んでくれてありがとう。ぼくは、A君のことが大好きだよ。」はじめて生き物を飼うことができたよ。これからも生き物を大切にしよう。地域の公園や池や川に行っているいろいろな生き物と触れ合いたいな。
-------------------------------------	---